

同時開催 CAMKコレクション展vol.6 きっかけは「彫刻」。—現代日本の彫刻と立体造形

きっかけは「彫刻」。近代から現代までの日本の彫刻と立体造形

CAMK 熊本市現代美術館

会期
2019

9.21_(日) → 11.24_(土)

10:00~20:00(展覧会入場は19:30まで)休館日:火曜日(10/22(火)は開館し、翌日休館)

熊本の
大彫刻展



会場でもとになった作品をさがしてみてください。

出展作品を
キャラクター化
してみました☆

〔イラスト作画〕
崇城大学
芸術学部デザイン学科
マンガ表現コース有志

vol. 91
AUTUMN
アートキッズレター

きっかけは「彫刻」。

日本の近現代立体造形をドーンと振り返る!!



元祖クール・ジャパン!? 「生人形」の立体造形

安本亀八《相撲生人形》1890 年
熊本市現代美術館蔵

CAMK
Collection

舌をベッと出し、頭でっかちで足は細く、不思議なポーズをしている。かわいい?それとも、ちょっと変顔!? 橋本平八は、ロダンの流れをくむ「彫刻」とは異なるタイプの、日本古来の精神性を取りこみ、原始美術にも通じるような木彫を残した。「人間」になる前の、神や仏、生き物たちに近い存在としての「こども」をあらわした傑作だ!

ちょっとキモかわ!? 「こども」をとらえた 最高な一点!

橋本平八《幼児表情》1931 年
東京国立近代美術館蔵



撮影・大谷一郎

古い鎧を身につけ、立ちつくす人。なんだか、おばけや亡霊のようにもみえる…! 敬虔なクリスチャンだった舟越保武は、「島原の乱」の激戦地・原城址を訪れ、その厳しい弾圧の歴史にショックを受けたという。雨上がりの夜に、再び立ち上がりさまよう、名もなき兵士の魂。その一人一人の声に、舟越は耳を傾けていたのかもしれない。

名もなき人々の魂 島原・天草から 聞こえる「声」

舟越保武《原の城》1971 年
東京国立近代美術館蔵



撮影・大谷一郎

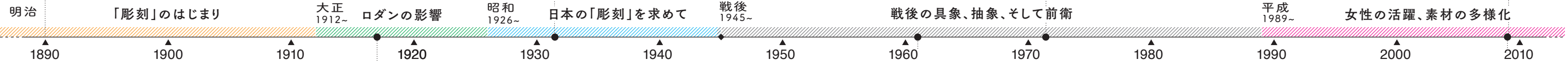
好きなものはスキ! 私の人生、私が主役!

草間彌生《私の犬のリンリン》2009 年
熊本市現代美術館蔵



©YAYOI KUSAMA
寄贈：KDDI 株式会社

私たちの暮らしに、無くてはならない携帯電話。だったら、それも好きなものでいっぱいになりたい! 3 種の電話は、水玉、ミラー・ルーム、リンリン、ハンドバッグなど、草間作品でおなじみのモチーフで構成される。草間の手にかかれれば、携帯電話も、ひとつの使える「彫刻」として、無限の可能性を持つのだ。



意外とデカイ!? 彫刻の伝道師の ハンドパワー

高村光太郎《手》1918 年頃
東京国立近代美術館蔵



撮影・大谷一郎

《手》の実物を見ると、結構デカイ(高さ 38.7 cm)。そして、このポーズをまねてみると、割と手がつりそうになる!? すべての指に、緊張感がみなぎっていることがわかる。高村光太郎は、ロダン流の「彫刻」という考え方を日本に広めた。素晴らしい「彫刻」を知ってほしい! そんなパワーが作品にも宿っているようだ。

そろそろ実現!? 「人工胎盤」は レディーの夢!

田部光子《人工胎盤》
1961 年(2004 年再制作)
熊本市現代美術館蔵



白いフワフワでおおわれた穴の中にある電球。そのまわりには、釘が無数に打ちつけられ、ザクザクとしたでっかい縫い目がある。見るからに、い、痛そう…!? 前衛美術集団・九州派で活躍した田部光子の《人工胎盤》は、妊娠や出産に伴う苦痛や育児からの女性の解放がテーマ。令和になり、そろそろ「人工胎盤」が当たり前の時代がやってくるかも!?

生きものたちのダンス ステージ上の「彫刻」

ひびのこづえ
《白いフェルトの服(穴、三日月、トゲ、アコーディオン、うろこ)》1991 年
《動物の頭(くま、さる、さい、ぞう、うま)》2009 年
熊本市現代美術館蔵



クマ、サル、サイ、ゾウ、ウマ。色んな動物たちが、色んな形の服を着ている。舞台やテレビ番組などの様々な衣装を手がける、コスチューム・アーティストのひびのこづえ。「穴」「三日月」「トゲ」「アコーディオン」「うろこ」をイメージしたドレスは、ステージ上で、演者たちがまよって動き、かたちに変化することで、「彫刻」として完成する。

熊本市現代美術館開館記念日 × 熊本城ホール開業記念 コラボ企画

第1弾

エマニュエル・ムホー
トーク & ワークショップ

いよいよ2019年12月にオープンする、熊本城ホール。その開業記念として、建築家／デザイナーとして活躍するフランス出身のエマニュエル・ムホーさんによるインスタレーションが、エントランスロビーにて実施されます。それに合わせ、熊本市現代美術館でも下記の通り、アーティスト・トークとワークショップを行います。ムホーさんの鮮やかな色彩の世界を体験してみてください！

アーティスト・トーク

10/12 (土) 13:00-14:00

入場無料

ムホーさんならではの色に対する考え方を語ります。

場所：美術館内ホームギャラリー

ワークショップ

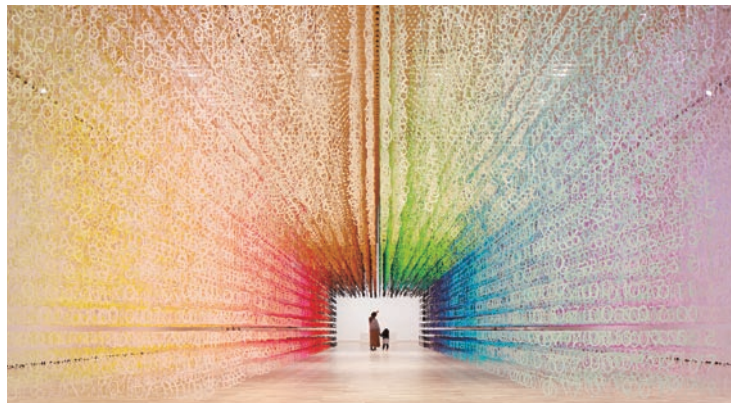
10/12 (土) 14:30-17:00

参加無料

ムホーさんと一緒に色の世界を体感しよう！

定員：30名(要事前申込)

場所：美術館内アートルフト(予定) 対象：小学生以上



エマニュエル・ムホー (建築家／デザイナー)
フランス生まれ。1996年より東京在住。emmanuelle moureaux architecture + design 主宰。東京の「色」と街並が成す複雑な「レイヤー」と、日本の伝統的な「仕切り」から着想を得て、色で空間を仕切る「色切／shikiri」コンセプトを編み出す。色を大胆に取り入れた建築、空間デザイン、アートなど多様な作品を創造し続けている。代表作に巣鴨信用金庫の建築設計、ABC Cooking Studioの空間デザイン、100 colors シリーズ、UNIQLO や ISSEY MIYAKE のアートインスタレーション、国立新美術館での「数字の森」などがある。東北芸術工科大学准教授。



第2弾

コスチューム・アーティスト ひびのこづえ ワークショップ
「ちいさな生き物のブローチをつくる」

コラボ第2弾は、きっかけは「彫刻」。展出品作家でもある、コスチューム・アーティストのひびのこづえさん。コスチューム制作に使う素敵なお布で、思い思いのユニークな生き物を作ってみよう！

①10/19 (土) 13:30-16:00 ②10/20 (日) 10:00-12:30 / 13:30-16:00

定員：各回 60名(事前申込。定員に空きがある場合のみ当日参加OK。つきそい参加不可)

場所：ホームギャラリー 参加費：1,500円(材料費含む、特典付き)

対象：5歳以上(小学校以下は保護者同伴、参加者は必ず一人1点制作します)

持ち物：はさみ、筆記用具、色鉛筆、布(各自使いたい人のみ)



ワークショップで作成したブローチは、熊本城ホールのエントランスロビーに展示します。終了後、制作者に返却。(会期：2019年12月17日 - 2020年1月13日(予定))

ワークショップ参加ご希望の方は事前にお申込ください 電話：096-278-7500 (熊本市現代美術館)
＜ワークショップの詳細は美術館ホームページをご覧ください＞

Gallery III Exhibition GIII vol.130

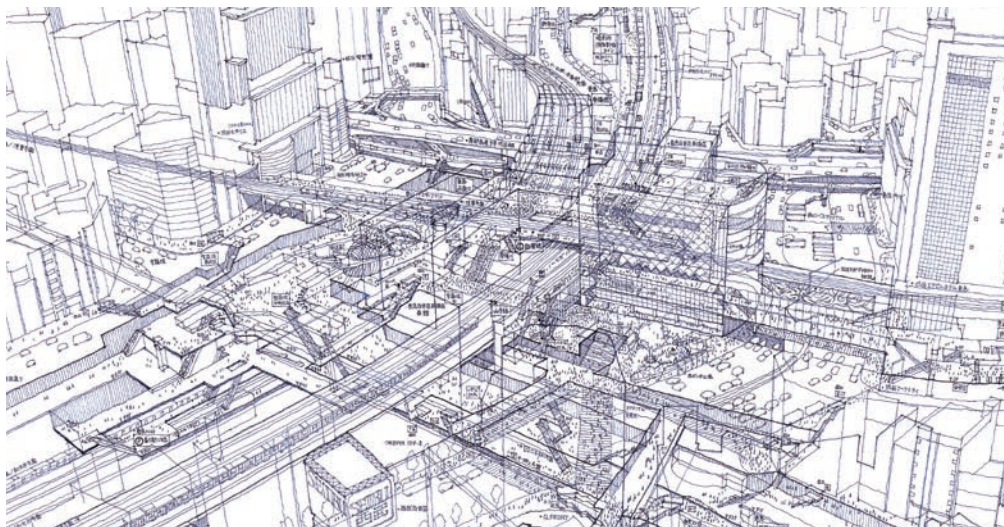
青ペン1本による脅威の空間
解剖図「タナパー」を大公開！

田中智之の
解体新書展

8/28 (水) - 10/27 (日) | 入場無料

会場：熊本市現代美術館ギャラリーⅢ

熊本大学で建築を教える傍ら、通称「タナパー」と呼ばれる、建築物をX線で透過したかのように、青ペン1本で内部構造を表現する驚異的なパース画で知られる田中智之。近年の多岐にわたる田中の仕事を「解体」し紹介します。



《渋谷駅解体》2011 (部分)

表紙イラスト(展覧会プレイベント・ワークショップ「作品をキャラクター化する」より)

■作者：准教授小川剛、助教木下裕士、堂野優、高田晃喜、兵頭萌咲、田副雄大、濱武茅乃、兵頭萌咲、藤井美沙希 ■もともなった作品：荻原守衛《女の胸》、荻原守衛《坑夫》、荻原守衛《文覚》、平柳田中《姉ごころ》、朝倉文夫《墓守》、高村光太郎《手》、戸張孤雁《雲り》、高村光太郎《鯉》、橋本平八《幼児表情》、橋本平八《連唐》、平柳田中《鏡獅子試作頭》、向井良吉《蟻の城》(以上すべて東京国立近代美術館蔵)
ひびのこづえ《白いフェルトの服(トゲ)》《動物の頭(くま)》、中山タイスケ《private castle》(すべて熊本市現代美術館蔵)

10月12日(土)は開館記念日で入場無料！

ART KISS LETTER アートキッスレター Vol. 91 (2019年9月) [次号は12月発行予定]

編集：佐々木玄太郎 富澤治子 坂本顕子 紫垣美帆 デザイン：石井克昌(MOTOSHIKI) 印刷：シモダ印刷

発行：熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500 Fax 096-359-7892

